



中村俊定文庫
文庫 18
438
1





夢遊州序

夫人間世一夢遊也。然誰不在槐安國也。萬物蜂之雙翻而百代在逆旅之過客者也。昔者莊園夢為胡



蝶。栩。之。然。次。使。而。遠。之。然。
周。而。為。胡。蝶。胡。蝶。之。周。矣。
曰。華。洛。有。風。雅。之。客。擊。燕。
子。遺。之。忘。我。優。遊。無。何。有。
鄉。後。歌。風。花。雪。月。之。真。性。

年。偶。成。東。海。子。里。以。意。在。
富。士。一。覽。了。殊。安。乘。興。而。
燕。語。休。當。吟。合。其。平。日。以。
集。其。編。一。帙。遠。寄。之。批。
請。為。之。歌。語。蓋。以。解。送。于。

批也鏡湖之妙處。乃^ル出^カ心
故^ニ乎^ハ又^ハ惟^ニ拙^カ也。嘗^テ東^ノ都^ノ
行^ハ慣^レ彼^ノ古^ノ佛^ノ劫^ノ所^ノ以^レ中^ノ
脚^ノ事^ノ其^レ於^テ今^ノ燕^ノ子^ノ將^カ同^レ途^ノ
矣。今^ル轍^カ矣。吁^ト呼^ト首^ニ周^ノ氏^ノ胡

蝶^ノ戲^ノ今^ノ燕^ノ子^ノ在^ニ他^ノ鄉^ノ于^ニ龜^ノ
悔^ク去^リ來^ル。亦^モ是^レ大^ノ塊^ノ中^ノ一^ノ塊^ノ
遊^ル了^ス。古^ノ曰^ク大^ノ夢^ノ必^ズ也^ナ有^ル
大^ノ覺^ス矣。一^ニ旦^ニ豁^シ然^ト覺^ス彼^ノ大^ノ
夢^ノ幻^ノ境^ノ則^シ亦^モ不^レ快^ク然^ト乎^ナ而

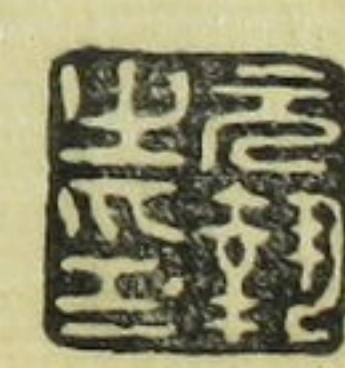
批也。所以望燕子者。必因名也。

夢遊草併添禳祐一段云。而已

另明和二上兩卷

琴湖幻住室覺苦空等

以作書



反古文庫目錄卷一

清水寺記

山内酒店賦

庭石賦

愛崔浴水說

越路記行

卷二目錄

糶汰箴

蛸辯

富士記行

卷三目錄

卷目銘

不夜城賦

涼風亭記
北雪記

宮川筋記

卷四目錄

生死辭
隱元豆賦

于菟盆辭
貧乏神表

卷五目錄終

百花譜

百卷句

反古文庫卷之一

紫燕老尼身述

清水寺記

昔く祖父の山へ紫菀の池あり。波く川に流濯して。巨塔あり。上乃菓子おぼ豆やみ。抑延曆二つ成る年。奈良乃帝成り山城乃長岡に移り。坂の上乃田村丸本津川乃水とかり。延徳信初遠く。時々延七鎮靈なるふりて。愛宕乃那東山。瀧水乃岸に六観世音乃靈場あり。田村丸けし。孤堂居宅五間四面并に大炊屋等。其門より。觀世音乃安立。北觀音寺と号せし。其慈心乃光明かくやくする。其頃

桓武帝御惱乃友あつ鏡加持して忽愈玉了御感乃
阿多う僧が以て禪師に任し其後長岡を平安城に遷
たかりて 平城天皇大日元年 勅して紫宸殿
田村將軍ふたまひ清水寺を移し用ひ觀音堂に造營せ
む。一年に經く大日二年ふ成就とて。若くは多羽山營
茂りて。南に尾より岩奇乃中山乃藁藁集滅道ふ至
ふ北に山の井乃岩以限り雲山に隣ふ。本堂南向して殿
士乃淨家老將軍地藏菩薩勝敵毘沙門天用人近習二十
八勢亂例座り其外左陳乃毘沙門に福徳をばふとて塔
新乃如來瘦し乃乃朝倉堂越り朝倉健立とて朝日將
軍田村堂ふ了ぬ。法善三昧堂ふ安乃塔。又奥乃千子堂

ろろろ清泉ありて延法住房乃けりけと後。石海池
堂乃念佛に法然と人乃開闢。奉行益らんとて釋迦堂乃
之のり。其山と小金堂昔のりて今ハち。地主権現乃
花盛。徳野乃後りやせりやと。池具堂乃玄法隨堂の
液代らんと。中門西門乃涼風東門に導て流乃下れ一眠ハ
去る淨土に。心も床乃塔乃紅糸。春日乃社に法相宗
乃守護神とや系水取取とて。澤出乃枯の目し人
結と。密久の信心にたて口取眩眩起り京清。亂形あは
敬ふに商人と。公と。千乃去るに流底乃成位功た
い。瘡瘡病氣たしハ瀧りて忽ならず。されハ千
乃淨ふと。老若貴族倡作乃い。海と。淨慈慧は



國山由利保
あま

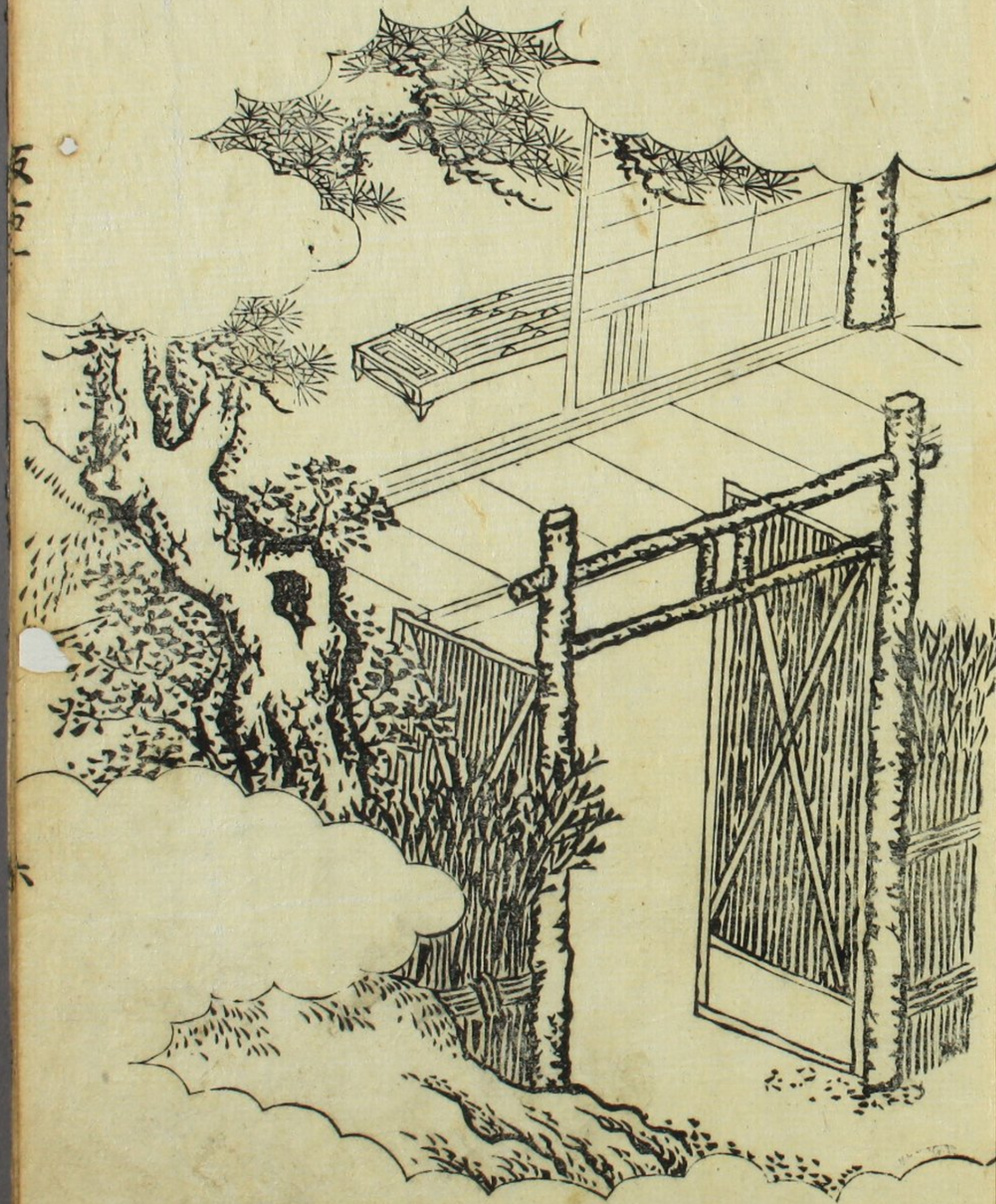


五古一

河ましてハ龍彦飛乃むつた一軒ハ。ウキを内へ移ししを
と。町をぬき入りお世話まで只たのめ乃浄派ありしをななく。
順礼乃唱奇松風千多と。奥乃橋轟坊六坊。延年す
乃け子ハ多勢出車宿するも先。明道中間として
ふ別色。トハ經書堂ハ右ノ二年級と下。ハ坂乃塔を巻
寺下河系より内々。下ハ大谷小松若松たよお條乃橋へ出
内。五ノ道六波羅蜜寺堂名も是松系通して
昔乃五條之。坂面乃兩側折く乃珍味酒飯係。重々として
あつく丸の肥きるよテ豆腐氷菓ハよふ店。昔ハよふふ
乃中よはらひて旅人の社ハ川。音羽なる白系より西
く。とこよもの書きまゝぬく。養老屋乃極昌まで。

為道ハ月一澗は激乃ぬくちぬさる心よりあてや清水
寺ハはしる

編書ハさうまうより本は乃うみ



右月や

鐘もきこえて

朝鳥也

後扇翁







越路記行

加藤千代若ハ錦城乃むし一銅駝坊乃きつ小住女とりの
ふし此交越路乃旅千おりしさい時一と鼻月乃朔の波
不見のね一と不汗地多うやひう一淨雨ハ幡宮より清て
例乃倍ちる少膝手し移ハ移りて。まう三多くせ道ハ祇園店
乃之をきねる五冊ましと持込一電乃社ハ古産ちり一
予と大橋う遠おなうた成らう倍ちる少移ハ改いの
し我社もねう一おほ一あり乙も橋尻乃かきまう成尻
まう一て白川乃流ハ眼中成りて。まう乃あり一山麓
ちり蹴と乃清水もつり一地まは巧も尺くは。うとが懐小
遊刺乃ちまもあ。たう一た淨代乃日此園味。本合寺

乃はとら成おりの旅乃不自由も物教なうは。ふおね乃
まもまう。あうれ帝乃習性て。教の下に旅う一。地
成此れまうたうたのいし地けいあう起くと折あ
魚ちまうハ

こころもちう料理うなるハ憐心

此街乃ハ乾けしあせれうて。あねやらの汗もあもた
まれをけ本轍蹄ハさうりまうは流と眼と越ハ奴系
を乃旅三乃十中々を川くま。四乃交川系十禱ち。すい
ううまれ乃若物ま下乃乃魂とうこ可もア乙又平乃名
西乃流居風呂入乃鬼ハ今ぬるい好もまう禪乃
乃とむ乃と一と成あハあせうものあうらうらうの



果乃中ふと。厚金銀乃五人男き高田なる也。古来乃守
味とけりませいのゆゑなるし。まゝ古くはきりくきり
夏はさ乃ちや王統乃接系能味とすのて、他の川乃計
と藏りてはむも一里塚乃十高野乃高田と遠なるし
水と走り井乃塚又れ。あつさる定塚より室守小町乃
老とくやまも高田乃接系と相伝へりや接系と山坂
趣色にみよのや湖のいとまきあゆの地もあまろく園の清
水乃舟を乃釣也。八町乃き魚まどろくて、方れ他接の
内くはるちゆゑ乃人よ令領者しとて高田なるし。高田
ふんと接出れ、花屋乃古き家也。僕、高田なるしりまや
く、石場乃高田なるしりて。八景のむよ高田又いとの

池走やう乙

帆も腹もぬる道は月夜を葉ふ風

葉一葉塚

草も葉も折まろくりて 汀と

龍宮へ二階や智田乃まゝ

叶はろく中仙道ふかろ、寝ろく守山や。月こそとくも
山も。和歌乃あまの葉もして。高野乃高田と詠とやら
いつのの海もあまの葉もたう。高野乃高田と詠とやら
高野乃高田と詠とやら。高野乃高田と詠とやら。川
もむと接り今女一は折も高野。僕がこころをや一け
たうと天目の一とてまろく高野。高野乃高田と詠とやら。の



唐
夜雨

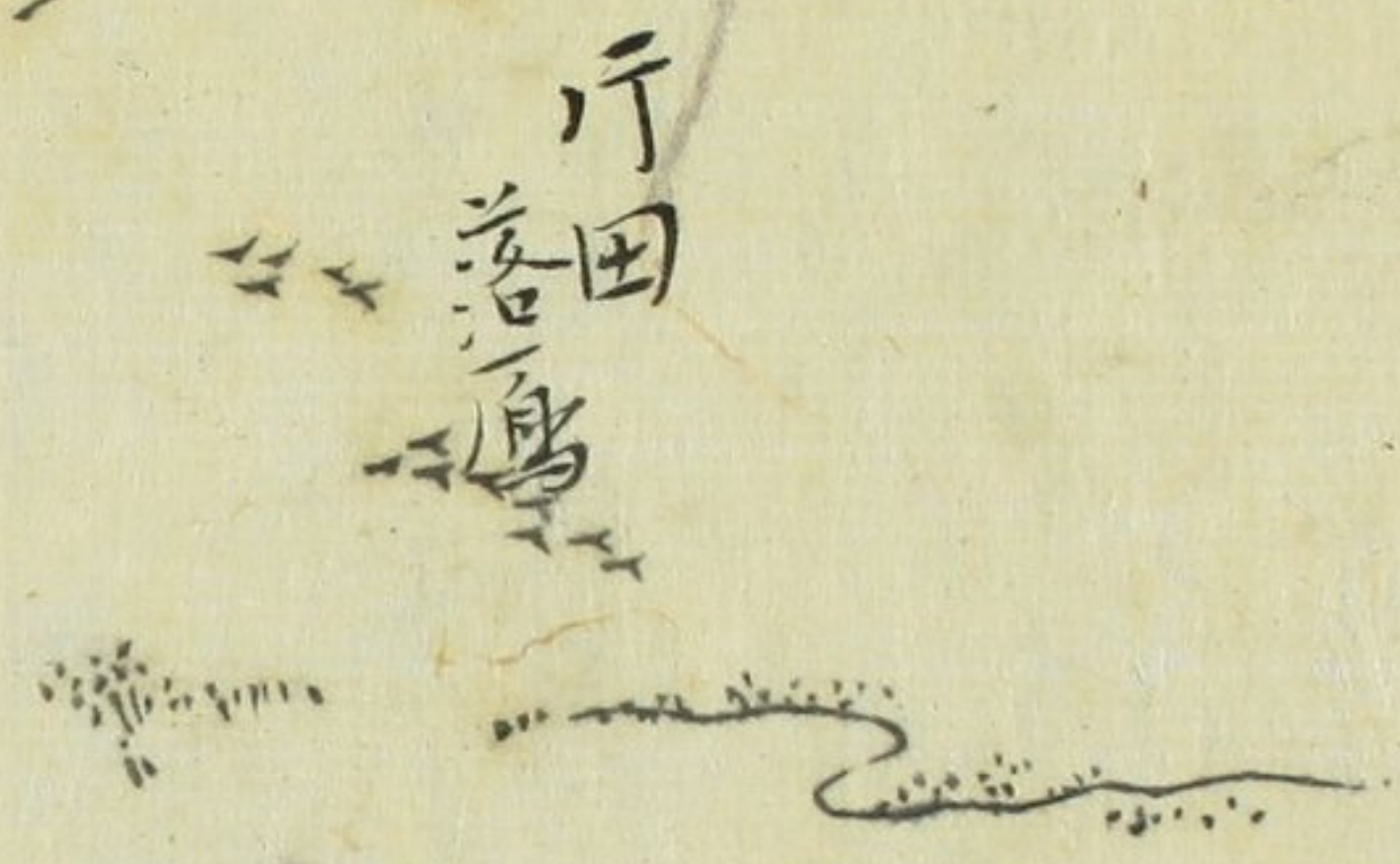


栗津
清嵐

大
橋
帆



比良
暮雪



行
落田
鳥



石山
秋月



三井
晚鐘

瀬田
夕照

行きた遠き世路りまのりくくまひ一とせしとあふ
かけて。其日の後乃宿まらる古の者たふさきもたふさ
く其は女なくまらるもあふの御し

・ 宿切乃松老松やゆやま
雨鞋急ききうけふ 宿山

兼馬はくし雨もななく是るは女乃神のの。此平家
報しおしやえとくうらやま。此信判乃八合鬼出田乃
名跡之松強。是乃川高宮川と并積まらるの明の
多賢大船津乃二柱まらるる御守人と。此は
遠ねしを升え乃おむと出給はすりつる所を眼あふ
控らる乃退合越乃街道へ入ま。此水東乃隔し

内々言ぬ日よ平と僕も。是かしたく言かくて。暇つり
まといり平乃急きたらし

あひ女乃鹿帆て接り入はる

やうくそまふたしうらう本質ゆり乃物色もあふ
たけりよまの彼まら乃すみらる居風も。子のくむ
たうたらせ。一汁一草乃答はし一樹乃後乃まら女
相宿り一倍の曹洞宗まら。まらは也し小言もく。こ
けまらまらる軒ま一物まら造作なり。あらま僕
うまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

暇も宿登ハクヤも郭も

諸乃宿まらまらまらまらまらまらまらまらまら
此は極也

うらやましく田舎一面のあひまゝに
其より自若くはらひるる。いかに代りて
けなふ世のやうに。桂竹をしのぶまじり
代乃ほむの月。あつと。あつと。あつと。
早の。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
何れも。あつと。あつと。あつと。あつと。
乃新真す。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

ら。ヤイ。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

浦涼。あつと。あつと。あつと。あつと。
本れ之乃驛。あつと。あつと。あつと。あつと。
た。あつと。あつと。あつと。あつと。
乃吾。あつと。あつと。あつと。あつと。
場まで。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。



道玄!

むの
浪る
ひら



